

指導者の心構え学ぶ

後輩育成に携わる社員 メンター養成研修会

大船渡



シヨブカフェいわてなどが主催するメンター養成研修会は26日、大船渡市盛町のカメリアホールを会場に2日間の日程で始まった。後輩の育成に携わる若手社員が参加し、指導に必要な技術や考え方を学んだ。

この研修会は、新入社員や若手社員に最も近い存在となる先輩社員に対して、組織の育成体制において必要なメンター(育成者)としての実践的なスキル

や心構えを習得する機会を提供することが目的。気仙2市と盛岡市で製造業、医療・福祉業、サービス業などを展開する19社から合わせて22人が参加した。

講師を務めたのは、(株)日本マンパワーのマネジментコンサルタント・浅見広明氏。初日は共通点探しや伝達ゲームで効果的なコミュニケーションについて理解を深めたあと、先輩社員の役割、褒め方、しかり方など、指

導者としての意識や基礎的な実践スキルを学習した。

このうち伝達ゲームでは、2人もしくは3人組になり、1人はいくつもの直線や円で作られた複雑な図形を口頭で伝え、もう1人はその説明を頼りに図形を描くことに挑戦。1回目は背中合わせで質問を禁止、2回目は向かい合わせで質問を許可した。

このゲームは、相手に一方的に説明しても「解釈」というフィルタを通して別のものになってしまつことを実感したうえで、「どうすればうまく相手に伝わるか」という思いやりを無意識に発揮していることに気づかせることが狙い。

1回目は伝える方も描く方も四苦八苦している様子が会場のあちこちで目撃された。伝達ゲームで効果的なコミュニケーションを学んだ参加者たち「カメリアホール

こちらに見られ、答え合わせでは見本とかけ離れた図形に思わず苦笑いが漏れる場面も。2回目は直線の長さや円の大きさなどを細かく伝える一方、描く方も分からない部分を積極的に質問。1回目と比べて明らかに見本に近づいた図形が完成すると、顔をほころばせて喜ぶ姿が見られた。

2日目は、グループワークや応用的な実践スキル習得に取り組みほか、総合演習として後輩との面談を想定したロールプレイを行う予定。